

第3回小平市健康増進計画検討委員会 議事録

○開催日時及び場所

日時：平成28年3月17日（木）午後3時から午後5時まで

場所：健康センター4F 第3・4会議室

○出席委員

安齋 圭太郎（公募委員）
井上 斉（一般社団法人 小平市医師会）
小川 健太（公募市民）
小野 友紀（聖徳大学短期大学部）
木田 明男（小平市立小学校校長会）
小林 智恵子（小平市薬剤師会）
高森 恵美子（公募市民）
多賀谷 守（公益社団法人 東京都小平市歯科医師会）
永野 貴久（小平市スポーツ推進委員会）
向山 晴子（東京都多摩小平保健所）
村上 英子（公募市民）
持溝 洋介（公募市民）
安永 明智（文化学園大学）
渡邊 直子（公募市民）

○事務局 健康福祉部健康・保険担当部長
健康推進課長
健康推進課長補佐兼予防担当係長
健康推進担当係長

○傍聴者 3名

○委託事業者 2名

○配布資料

資料1 小平市民の健康に関する意識調査報告書
資料2 小平市の健康状態（1）補足資料
資料3 小平市の健康状態（2）
資料4 （仮称）小平市健康増進計画骨子案
資料5 基本理念と基本目標
資料6 1～8 分野別目標と目標数値等
資料7 重点分野の設定
資料8 来期日程表（案）

1 開会

委員長より会議の説明がなされ、事務局より配布資料の確認等が行われた。

2 議事

(1) 小平市民の健康に関する意識調査報告書について

健康推進課長が、資料1を用いて、小平市民の健康に関する意識調査報告書について説明を行った。

(2) 小平市の健康状態について

健康推進課長が、資料2、3を用いて、小平市の健康状態について説明を行った。

委員長 小平市の健康状態(1)の資料では脳内出血が目立って多いが、何か小平市特有の原因はあるのか。

委員 おそらく、罹患率そのものが高いというわけではなく、救命の際のカウントの仕方等いくつかの要因により、少なからず数値の誤差があると思われる。

なお、これら脳内出血の対策として、ある症状が出たら早く受診をするよう日頃から薦めるなどし、脳卒中のネットワーク協議会との連携も含め、健康増進面とともに、医療面からのアプローチも必要であると考えられる。

委員 小平市の健康状態(2)の資料の「小平市の次世代の健康」の中で、肥満傾向の小学生が都と比べて目立って多い。しかし、一方で中学生になると肥満の割合は低くなり、また、小学生の運動量は、小平市の方が都より多い。これらの相関関係にはやや違和感を感じるが、どのような肥満の基準をもって数値算出がなされているのか確認したい。

事務局 根拠資料である東京都学校保健統計書によると、学校医が肥満であると判断した児童数の割合とされており、何らかの明確な数値基準によるものではないと考えられる。

委員長 子どもの場合は、BMIのばらつきがあり算出が難しいため、このような基準としていると考えられる。

委員 現在、子どものやせについても問題視されているが、こちらについてはどのように把握しているか。

事務局 東京都学校保健統計書では、栄養不良についての記載があり、こちらが該当すると思われる。但し、こちらでもBMIの数値とは異なるものであると考えられるため、肥満と併せて基準が明確にできれば、後日改めて提示したいと考えている。

委員 小平市の健康状態(2)の疾病別医療費について、最も医療費が高い疾病とし

て腎不全が挙げられているが、これは透析を指していると考えられる。現在、小平市では国民健康保険の重症化予防事業を行っていると思うが、その効果について教えていただきたい。

事務局 平成26年度に策定した小平市国民健康保険データヘルス計画に基づき、現在、10名の方が重症化予防事業に取り組んでいる。事業開始から日が浅いため、信頼性のあるデータはまだ出てきてはいないが、広島県呉市ではそれらの事業が早い時期から行われ、効果が確認されているため、継続していくことで小平市でも効果が表れてくると考えている。

委員 小平市の健康状態（2）のがん検診の受診率についてであるが、この分野は医師会とも相談して、国の実施基準の手法のみではなく、アクセスメリットを考えた受け皿づくりを考えていただきたい。また、これまで受診率向上のためにクーポン配布など様々な対策をしてきていると思われるが、その中でどれが効果があつたかを分析していただきたい。

委員長 因みに、これまでのがん検診受診率向上に関する取組で、効果がみられたものはあるのか。

事務局 例えば、大腸がんの受診率は平成23年度以降では上昇傾向にあるが、これは、それまで集団検診であつたものが個別に各病院で受診できるようになったことが要因であると考えている。

また、国の事業に基づいて、乳がん、子宮がんのがん検診のクーポン配布を定期的に行ってきたが、平成26年度では乳がんのがん検診受診率は都内26市のうち第4位となり、クーポンの効果があつたと考えられる。

委員長 有効な手法について、今後、計画策定の中で検討していきたいと考えている。

（3）（仮称）小平市健康増進計画骨子案について

健康推進課長が、資料4、5を用いて、（仮称）小平市健康増進計画骨子案について説明を行った。

委員長 骨子案については、次回会議で決めていくことになると考えているが、1つの意見として、「ライフステージを通した健康づくり」の「④喫煙・飲酒」はそれぞれ喫煙と飲酒で分けた方がよいと考えている。それは、喫煙の対策は比較的進んで効果が出ている一方で、飲酒については若年層の飲酒や依存症などへの対策が遅れている部分があり、それぞれ進展の度合いが異なるためである。

委員 健康寿命の延伸については、1点目は壮年期の疾病予防、2点目としてフレール予防という高齢者の体力、栄養、社会活動を地域の中で準備し虚弱を防止する取組のこれら2点の考え方が重要となると考えている。

また、健康を支える社会環境の整備については、地域とのつながりに加え、なかなか地域の取組に参加できない人への情報提供のあり方などを検討する必要がある。

その他重要な視点としては、かかりつけ医・歯科・薬局、食育と学校の連携、学校を通じた子どもとその家族に対する健康面でのアプローチが挙げられる。

委員 一部の学校では、エンジョイライフカレンダーというものがあり、それらの作成を通じて、親子で運動をしたり、食育を考えるきっかけになっている事例がある。

事務局 この計画では、小平市の平坦な土地を利用し、サイクリングやウォーキングなどのプログラムを検討していきたいと考えている。また、この計画期間中に 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックが開催されるため、市民の健康増進との関連づけを検討していきたいと考えている。

委員 骨子案の「主な生活習慣病の予防を中心とした健康づくり」にがん予防が含まれているが、生活習慣予防が全てのがん予防につながるという考えには違和感がある。

委員長 次回会議では、それらの項目立てについても検討していきたいと考えている。

(4) 分野別目標と目標数値等について

健康推進課長が、資料 6 を用いて、分野別目標と目標数値等について説明を行った。

委員 一部の学校ではがん教育や食育についての機会を設けており、それらの取組の吸い上げを行い、計画策定にあたっての参考としていただきたい。

(5) 重点分野の設定について

健康推進課長が、資料 7 を用いて、重点分野について説明を行った。

(6) その他

事務局から、資料 8 を用いて、来期日程表（案）が説明された。

委員 今後の計画策定にあたっては、小平市の保健師、栄養士、健康づくり推進委員の方にも検討委員会に出席していただくなどして、日頃、現場で感じていることや、専門的な立場からの意見などを聞き取る機会を設けていただきたい。

委員長 出席もしくは、意見集約での形でも結構なので検討していただきたい。